

第26回 飯田女子短期大学学内研究集談会

Part 1 口演・報告

日時：令和4年2月15日(火) 9:00-11:40 会場：飯田女子短期大学teams会議

プログラム

- 9:00 開会の辞および挨拶
- 9:05 報告：2022年度看護学科新カリキュラムの紹介
.....○鈴木真由美・○山下 梓・登内芳子
- 9:25 口演：女子大学生における口腔衛生と生活習慣等との関連について
..... 澤田有香
- 9:45 口演：災害発生直後における最小限の水で調理する食事の考案
..... ○高木一代・松下慶子
- 10:05 休憩（10分）
- 10:15 口演：外国にルーツをもつ障害児の親の困難の実態についてのインタビュー調査
..... 菱田博之
- 10:35 口演：外国にルーツをもつ障害児の親と子に対する自治体の支援状況
..... 菱田博之
- 10:55 口演：短期大学における哲学・倫理学教育の意義..... 奥井現理
- 11:15 口演・SD：キャンパスライフに対するアンケート結果（令和3年度）
..... ○稲吉政岳・新井奈津美・桑原真裕子・小池美津貴
武分祥子・竹村 香・林 正樹・三浦弥生・渡邊千春
- 11:35 閉会の辞・アンケート記入

Part 2 展 示

日時：令和4年1月11日(火)～2月15日(火) 会場：飯田女子短期大学本館廊下掲示板

展覧会ポスター, DM, 会場写真

今年度の展覧会 作品発表について..... 田中洋江

研究ポスター

開腹術後患者の排便セルフケアに関する研究（第1報）

一胃切除術後患者の排便促進行動と排便状態..... ○山下 梓・山崎章恵

胃がんで手術を受けた患者の退院後から初回外来受診時までの体験

.....山下 梓・小田和美

報 告

2022年度看護学科新カリキュラムの紹介

鈴木真由美・山下 梓・登内 芳子

報告の概要

報告の目的は、2022年度看護学科新カリキュラムの紹介である。今回の改正の背景の一つには、2025年問題を見据え、将来を担う看護師に求められる能力が明確化されたこともある。コミュニケーション能力、生活を理解する能力、ニーズをとらえる能力他、全10項目の能力の強化が求められている状況下において、看護学科ではディプロマ・ポリシー（以降、DP）・学習成果の見直しとカリキュラムツリーの作成に重点をおいた。

近年の学生像

近年の学生像を以下の4つのタイプでとらえ、DPの見直しを行った。

- ①看護への関心が高く、入学後から学び方を習得し成長する学生。地域看護学専攻・助産学専攻への進学を希望する学生
- ②看護への関心はあるが、学び方がわからない。基礎学力が低い学生
- ③看護への関心があいまいで、人との関わりに自信がない。講義、試験・模試は得意だが、人との関係性の構築を学ぶことが不得意な学生
- ④看護への関心が低く、目的・やりがいが見いだせず学び方がわからない。自信が持てない学生

DPと学習成果の検討

近年の学生像から、DPに「コミュニケーション力を培う」「協調性をもって看護師としての役割を果たす」「専門的知識、科学的思考、基本的技術を身につける」「生活者としての対象の健康問題を解決する」「自らの能力を評価し、自分の課題を見つけ成長に向

けて学び続ける」の文言を明示した。

*DPは2022年度学生便覧参照

DPに到達するための学習成果は、1いのちの尊さがわかる、2他者へ関心を寄せ尊重して関わるができる、3自らの課題を明確にし解決に向けて努力できるなど、計10項目とし、学生が理解しやすいように一文一義の表記とした。学習成果はルーブリックを活用し、1年次前期・後期、2年後期、卒業時の計4回の評価とした。

カリキュラムツリーの作成

DPの検討後、現行カリキュラムの科目や授業内容を吟味し、授業内容の重複や欠如、配列や順序性などを見直した。また、厚生労働省が求めているICT活用のための基礎的能力や、臨床判断能力の基礎力などを養えるように、科目やその内容・学習方法などの視点からも見直しカリキュラムツリーを作成した。

まとめ

今回の改正を期に現行カリキュラムの見直しを行うことで、時代の背景や学生の特徴を踏まえ、社会のニーズにあったDPを検討できたことは有意義であった。また、教員自身もカリキュラムの内容を把握するきっかけとなり、共通理解にもつながった。今後は新カリキュラムの学習成果を評価し、PDCAサイクルの活動に取り組み、質の高い教育につなげることが課題である。さらに、カリキュラムツリーは学生が理解しやすく親しみやすいものに修正し、学生募集においても活用できるものとしたい。

口 演

災害発生直後における最小限の水で調理する食事の考案

高木一代・松下慶子

目的

現在日本では、毎年全国各地で様々な自然災害が発生し、誰が、いつどこで被災するのか想定できない環境下にある。2020年1月からは新型コロナウイルスの感染問題も重なり、災害時の避難は困難を極めることが想像できる。災害発生時に発生する被害としてライフラインの停止が挙げられる。2021年7月に発生した熱海の豪雨による土石流の発生は記憶に新しく、給水場所に水を求めてくる人々が新聞などに取り上げられていた。震災の場合、上水道の復旧作業は震災後3日くらいから開始され、全てが完了するにはおおむね1ヶ月程度かかると考えられている。(給水車は日本全国からかき集めても1000台程度しかない。)熱海の場合を見てみると、初めて通水が報告されたのは発災日を含めて5日目であり、約75%の断水が解消したのは発災日を含めて14日目であった(熱海市役所ホームページにて確認)。一般的に3日分の水や食糧を備蓄しましょうと言われているが、これらの事実は災害時における水の大切さを示している。

本研究では、1人分ずつ調理可能なパッキングの手法を用いて、災害発生直後の水が不足している状況を想定し、最小限の水で家庭にあると思われる備蓄食品を使用したメニューを考案した。

方法

耐熱性のポリ袋に食材を入れ、湯煎で調理する方法(パッキング)を用いた。食材を切る場合は包丁の代わりにスケッパーを包装された上から押しあてて切り、パッキングで調理済みの食品は、調理したポリ袋の上からスケッパーを押しあてて切ることにより直接食品に触れないよう衛生管理にも注意した。

結果

パッキングの方法を用いた場合、耐熱性のポリ袋の中に食材を入れて調理するので湯煎の水は水道水でなくても可能であり水の節約となる。また、考案したメニューは主食のご飯を除いて、食材の水分を利用して調理するものであり、缶詰などを使用することで包丁を使わずに調理可能なメニューを考案することが出来た。包丁やまな板を使用しないことで洗い物が減少し、さらなる水の節約につながった。

考案メニュー(災害時に役立つパッキングに挑戦!参照)

- ・ ごはんを炊こう
- ・ アレンジごはん
- ・ なんちゃって卵焼き
- ・ 簡単ミネストローネ
- ・ さばと高野豆腐のみそ煮
- ・ とうふの甘納豆入蒸しパン
- ・ ぷりん蒸しパン
- ・ ヨーグルト蒸しパン

口 演

短期大学における哲学・倫理学教育の意義

奥 井 現 理

要旨

本発表では、発表者が行ってきた哲学・倫理学教育の例が紹介される。それにより、短期大学においてこうした学習の機会を学生がもつべきであるということ、教員もこうした哲学・倫理学マインドをもって教育や学校運営にあたるべきであることが示唆される。

1. 「サバイバル・ロッター」(倫理学より)

—— 原則を疑う思考 ——

くじで選ばれた健康な人物が犠牲になって致命的な臓器疾患をもつ複数の患者に分け与えることで、結果として生き残る人間の数と、それにともなって人類全体の幸福総量を増すことができるという思考実験である。「殺人は不正なことである」という原則を貫き通すべきであろう思考実験であるが、幸福の総量という観点を与えられることにより、その原則を一度疑う学習機会となる。なぜ殺人は不正であるのか。被害者は無実であるから、被害者の幸福を奪うから、恐怖を与えるから等の根拠は機能しないということを理解し、根拠を自分で考えることになる。

2. 「ザ・バイオリニスト」(倫理学より)

—— 政府の決定・法律を疑う思考 ——

朝起きたら、ある世界的なバイオリニストを救うために世界で唯一接続に問題のない身体を持ち主であると判明した自分が、バイオリニストとベッドを並べチューブで接続されていた。あなたはそんなこと知ったことではないと抗議するが、あなたしかこのバイオリニストを救うことはできない、もしあなたがこれを拒否すればあなたはこの世界的なバイオリニストを殺したことになる」と説得される。これは人工妊娠中絶を擁護する思考実験である。いうまでもなく日本の法律では妊娠

21週6日まで人工妊娠中絶が認められているのであるが、その法律にはどんな根拠があるのか。母の意志や母体の安全可能性等を根拠として、政府が決めたから法律で決まっているからではなく、自分が考えることになるであろう。

3. 「エスカレーター社会」(哲学より)

—— 慣習を疑う思考 ——

エスカレーターでは片側を空けて乗るという慣習が多くの施設で見られる。いうまでもなくエスカレーターを歩きながら乗ることは危険を増す行為であるし、そもそも両側を埋めて乗るほうが輸送効率が高い。そうであるのに、多くの者はそこでみられた慣習に従う。これは、「社会」が成り立つ原初風景として考察される例である。人は模倣により群れて暮らす生き物であるから、シンプルで負担の少ない、そしてあまり深い根拠のない慣習をルールとして受け入れやすい。そうして、あるルールが機能している範囲がひとつの「社会」とみなされている（これは法律や通貨といったレベルのルールだとその社会は国家と呼ばれるいっぽうで、キャッチボールをしている二人も社会を構成していることになる）。「社会」とはなんであるのか、その慣習・ルールに合理的な根拠や妥当性はあるのかと、自分が属する「社会」の成り立ちを自分で考えることになる。

4. 「受動意識仮説」(哲学より)

—— 事実を統合的に追究する思考 ——

神経細胞とは電気信号を伝えるものであるということや中学校からの学習で多くの学生は知っている。脳は神経細胞の集積にすぎないことも知っているであろう。そうであれば「心」や「意識」とはなんであるのか。心や

意識は、脳の動きに遅れて機能しているという実験が示しているが、そうであれば心や意識は脳の動きをモニタリングしている受動的な機能にすぎない。心が先行し、脳がその指令に従って身体に命令（電気信号で伝達）するというイメージはここで崩壊する。これは多くの者の直観に反する。そうであるから、心が先行するイメージを守ろうとする。しかし、それでは先行原因なく機能する「心」や「魂」といったものの実在を想定しなければならず、それは不合理である。つまり、私たちが知っている事実整合的な考え方は、現在のところこの受動意識仮説しかないことが明らかになる。自分の素朴で曖昧なイメージや願いにどれだけ反していても、事実を事実として整合的に追究する思考を学生は体験することになる。

現代日本には哲学・倫理学を不要のもの無

益のもの、もっと言うと酔狂な趣味の一種とみなす向きがあるが（事実、哲学教育は初等中等教育では一切行われていないし、倫理教育は知識教育としてごく一部の高校生に開かれているに過ぎない）、そうではなく、すべての社会成員がその社会人生を送るにあたって備えるべき教養の一部であると発表者は主張する。このような学習を経た人間を、「扱いにくい面倒くさい人材」であるからと排除するか、それとも「批判的思考のできる有益な人材」として扱うかは、社会の成員一人ひとりの品性が問われる選択である。教育者であるべき教員が前者の立場を支持するようでは、未来は非常に暗いものであるといわなくてはならない。学生はこのような学習機会を得る権利があり、教育者にはそのような学習の成果を尊重する義務があるであろう。

口 演

キャンパスライフに対するアンケート結果（令和3年度）

稲吉 政 岳・新井奈津美・桑原真裕子・小池美津貴・武分 祥子・
竹村 香・林 正樹・三浦弥生・渡邊千春

目的

本学学生の学生生活に対する満足度、学生の知識・能力の変化、教育に対する満足度を調査することにより、教育内容や短期大学教職員の在り方を見直し、今後の教育活動や業務活動の改善及び充実を図る一助とする。

調査方法

- (1)アンケート調査
- (2)対象：本学に在籍する全学生（悉皆調査）
- (3)調査期間：令和3年12月20日～令和4年1月18日
- (4)調査内容：質問項目は、対象者の属性、サポート体制、教育施設・設備、入学後の能力や知識の変化、学生生活等の満足度、教

育に対する満足度

- (5)データ収集方法：オクレンジャーによるアンケート内容の送信と各自入力後の返信
- (6)分析方法：単純集計（オクレンジャー）

結果

対象者数484人中回収数414（回収率85.5%）

(1)サポート体制

履修登録や単位取得について相談できる体制については、90.3%が整っていると回答した。

休校などの連絡が学生にわかりやすく情報提供されているかについては、72.7%が提供されていると回答した。Web休講サイトの利用状況については、41.3%が利用していな

い、43.2%が休講サイトを知らないと回答した。

からだやこころの健康について相談できる環境があるかについては、8割以上がその環境にあると回答しており、その理由は、健康センターにおける相談体制の充実であった。

職員の対応に満足しているかについては、全ての部署において、満足、まあまあ満足と回答した者が93%以上であった。

(2)教育施設・設備

講義室、実習室の教育施設に対して一般的に満足している者は90.3%であった。

自習スペースは学生に対して十分であると回答した者は70.3%であった。

駐車場については、利用者の60.1%が利用しやすいと回答した。

(3)能力や知識の変化

入学した時点と比べた能力の変化については、一般教養で93.7%、専門知識で98.7%、知識が増えたと回答した。リーダーシップの能力の向上は71.0%、プレゼンテーションの能力向上は79.4%が増えたと回答した。

(4)学生生活の満足度

自分の学生生活（全般）に満足しているかについては、87.2%が満足、まあまあ満足と答えた。

本学に入学して満足しているかについては、89.3%が満足、まあまあ満足と答えた。

考察

(1)サポート体制

履修、健康面のサポート体制は比較的整っている。学生便覧の活用の充実が求められる。

職員の対応については、満足を得ている。

(2)教育施設・設備

自習スペースの確保、空調、駐車場の整備を今後も心掛ける必要がある。

(3)能力や知識の変化

専門知識、一般教養とも修得できたと感じている。

(4)学生生活の満足度

学生生活の満足度、入学満足度は高い水準を維持している。

まとめ

ここで得られた結果を各部署で共有し、連携の下で検討及び改善し、学生の満足度を維持・向上させていきたい。